



「いじめは必ず起こる」と考え歯止めが重要

校長 豊島 呈次

ロンドンオリンピックで日本選手の活躍が日本中を沸かせました。水泳、サッカー、バレーボールなど学校体育で子ども達も触れる機会が多い競技だけでなく、卓球、体操、レスリング、ボクシング、バドミントン、射的、フェンシング、ウエイトリフティングなど触れる機会の少ない競技でも好成績を収めました。日本中が多くの感動で湧き上がっていました。世の中には色々なスポーツがあり、諦めることなく努力をすれば世界の頂点に立つことができると選手の皆さんが示してくれました。子ども達に多くの夢を与える機会になったと思います。特に、今回のオリンピックでは、チームとして好成績を残し、個人の記録よりも深い感動と絆を感じ取ることができました。水泳の北島康介選手にどうしてもメダルを取らせたいというチームメイト27名の強い思いが結集してのメダル獲得。卓球福原愛選手の普段ライバルであるからこそ分かりあって戦えたという仲間への信頼感。28年ぶりに銅メダルを取った女子バレーボールチームの選手たちは、関係したスタッフや家族の全ての人の協力のお陰と感謝の気持ちを述べました。今回のオリンピックでは、結果の出せた選手も出せなかった選手からも「感謝」と言う言葉が聞かれました。このオリンピックを通して、私は、自分を成長させるために関わってくれる人に対して、謙虚な姿勢で常に感謝の気持ちをもつことができる子どもたちに育てたいという思いをさらに強くしました。



さて、浅間台小学校のいじめへの対応です。滋賀県大津の中学校2年生のいじめ自殺事件が連日報道されています。同じような事件も相次いで報道されています。浅間台小学校では絶対にこのようないじめを起こさないよう取り組んでいます。教職員には、「いじめは、いつでも起こる。どう歯止めをかけるかが必要」という気持ちをもって、子どもたちに対応することを確認しています。

また、私は、全校朝会などで「いじめのない学校にする」「困った事は先生に相談する」「ふざけあいのレベルを少しでも超えたと思ったらそれはいじめである」と子どもたちに話をしています。複数担任は複数の目で日常の子どもたちの変化や気になる状態を見過ごさないように気を付けています。気になることは学校全体の話題にし、定期的なアンケートや面談、聞き取りなどを通していじめを早期に発見することを心がけています。

いじめの情報が入った時には、担任や管理職で正確な事実関係を把握します。学級全体で事実を確認し、当該児童や名前の挙がった児童一人一人と面接をして、どのような事実があったのかを確認します。児童によっては、伝えてないこともあるため、それぞれの話から落ちがないように正確に事実関係を確認します。時間はかかりますが、正確な事実はその後の児童の指導にも、保護者の理解を得るためにも、とても重要なことです。

事実が間違いなく分かった時点で、管理職と担任、いじめを受けた保護者・児童、いじめた側の保護者・児童が同席して事実確認をします。いじめられた児童や保護者の気持ちを相手に伝え、二度と起こさない約束と謝罪をすることで、解決をはかっています。また、ひどいいじめについては、児童への個別指導、保護者との面談、謝罪などの責任をとることを通して、いじめは犯罪であることを伝え、今後と同じようなことが起きないように指導をしています。浅間台小学校は、教職員・スクールカウンセラー・同窓会・地域・関係諸機関と協力して相談体制を整えて子ども達が安心して通える学校作りに努力しています。